大阪市教

2010年11月4日
VOL. 464

編集・発行人=中路 龍太郎
発行所=大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35(大阪市教育会館内)
TEL 6910-8700 FAX 6910-7990

市民施策600億円削減 職員4000人・人件費650億円削減

市政改革基本方針

敬老パスなど639事業 廃止含め見直し

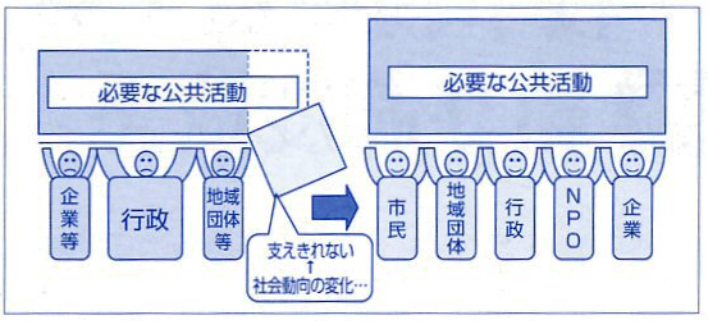
平松市長は10月21日の定例会見で、2011～15年度の「新しい大阪市をつくる市政改革基本方針Ver.1.0」(素案)を発表しました。18年度までに累積赤字が2720億円に達し、15年度にも財政再生団体に転落するとして、職員の1割以上約4千人、給料月額カット(3・7～5・7%)で人件費を650億円以上削減、600億円の経費削減に向け、他都市の水準を上回ったり独自施策などで比較できない639事業(650億円)について、廃止を含めて見直しをすすめるとしています。

見直しの「表」にある多額のものは、高齢者のための施策139億円(敬老優待乗車証交付事業ほか)、次代を担う人材の育成84億円(児童生徒就学援助事業ほか)となっています。

(素案)の実施編では「少子・高齢化の顕著な進行、生産年齢人口の減少という状況を踏まえると…『子ども・教育』『雇用・勤労』の分野へ『高齢者』の分野からシフトを検討すべき段階」として、社会的弱者の中に分断を持ち込もうとしています。一方で同時に発表した市経済成長戦略の中間取りまとめでは、「関西全体の経済成長への貢献を意識」し、大阪駅周辺と臨海部(夢洲・咲洲)の2地区に重点をおくという大型開発を打ち出しており問題です。

平松市長は「地域から市政を変える」を合言葉に、「みんなでささえあう新しい形の地域社会をつくりたい」と述べましたが、別図にあるように結局行政の役割縮小=経費削減の継続ではないのかとの批判が上がっています。

大阪市教は、橋下知事の「大阪都」でも平松市長の「市政改革」でも、市民福祉は後退することを市民に広げる取り組みを強化します。



「地域から市政を変える」

- 地域力の復興と公共の再編
- 多様な共同⇒行政の役割縮小

よくする会・市対連共同学習会=10月22日

休憩時間をください

職場で勤務時間短縮のとりくみを

「校長先生！休憩時間を下さい。校長先生に頼んでも無理なら、誰に頼んだら休憩時間が取れるのですか？」

これは、働くことにヘトヘトになった、ある小学校の職員会議で出た叫びです。

勤務時間が10月1日から7時間45分に短縮されましたが、15分減に見合う業務削減の指示は市教委からはありませんでした。

教職員が快適に働く条件を整えるのは、管理職や市教委の責任です。4月から1Cカードが導入され、市教委は6月の調査に引き続いて9月分の実態調査をしています。

勤務時間のデータは集約されるようになっても、それが時間外勤務の解消にはまだ結びついていません。

大阪市教は、この問題を根本的に解決するために、市教委に労働条件交渉を求めると共に職場では管理職に申し入れをするなど取り組みが広がっています。この取り組みをもっと広げるために討議資料(パンフレット)を発行しました。

○どれくらい超勤しているか計算してみましょう、○超過勤務に時間外手当が付くとしたら?等々職場の話題を基に漫画も入れて、読みやすく編集しました。分会会議や職場の学習会でぜひ活用を。実物は組合員には配布済みです。市教本部のホームページにPDFファイルで掲載しています(「大阪市教」で検索)。

教研集会の感想

《分科会》

○学年別、子どものイメージがしやすくてよかったです。

○「好きな物から発展させている実践」という言葉が心に残りました。特別支援学級でも子どもの気持ちを育てていきたいな～とおもいました。

○報告することによって自分が大事にしていることをまとめることができました。

○ベテランの先生や新任の先生も参加し、どのクラスもしんどい子がいますが、その子の頑張っているところを見つけ、まわりの子も認め、改善していった話がよかったです。自分の悩みにアドバイスをもらうことができました。

○幼小連携の大事さ幼稚園児も1年生も子どもの声に耳を傾ける大切さを学びました。元気をもらえました。

○基礎学力を取り戻し荒れたクラスが落ち着いてきた実践。楽しい授業の内容を教えていただきました。

《全体会》

○現場の悩みに答えてもらえる内容でよかった。明日からの実践に役立ちます。

○子どもを大切に思う気持ちがすごく伝わりました。

○「群れ」でなく「集団」づくりを、という言葉がとても心に残りました。月曜日が待ち遠しくなるお話、大変楽しく引き込まれました。

○中学には大変な子がもっといるが、初心に戻れました。

府民連・市対連合同学習会

～府市解体・関西州許すな～

日時：11月11日 18：30
会場：エルおおさか708
講師：黒田府議・瀬戸市議

たんぽぽだより 11月

大阪市教教研 青年が大活躍

大阪市教教研で青年部が大活躍。まず分科会。今年度から、学年別の分科会ができましたが、その半数以上が青年からのレポート。「学級をうまくまとめるにはどうすればいいのか」「はじめて受け持った学年で悩んでいる」など、目の前の子どもたちのために日々奮闘する様子を交流し合うことができました。

今年の目玉は、エンディングでの「たんぽぽ」大合唱です。実はこの日のために、1カ月前もから練習に取り組んできたのです。歌い方や振り付けもみんなで考えました。当日も午前中に集まり、歌の練習。そして、いざ本番。青年がステージに立ち、青年以外のかたも含め、全員で大合唱！最後は手をつなぎ、たんぽぽの綿毛が大空へ飛んでいく様子を表しました。気分爽快で教研を締めくくることができました。

市労組連

非正規・若年の賃金カット直ちに中止を

市労組連決起集会=10月20日

市労組連は10月13日に行った団体交渉において、2010年賃金確定重点要求を提出。市側は「人事委員会の勧告・報告の実施」を表明し、労働条件の改悪のみの不当な主張を行いました。

市労組連は、①大規模開発の赤字穴埋めのための賃金カットを直ちに中止すること、②定年まで働き続けられる労働環境の整備を求める、③人事評価制度の賃金リンクの中止を求める、④行政職給料表3級等の最高号給部分20号カットは、保育所や学校事務職場ではポストが限られており係長級に昇任できない、号給延長こそ求める、⑤通勤手当の経路認定変更は改善を求める、⑥行政職3級への昇格試験での「基準の明らかでない所属推薦」方式を廃止し、合格枠の拡大を行うこと、⑦代替要員配置を求める、⑧病気休暇の取得は1日でも診断書の提出を求める変更提案は改善を求める、⑨福利厚生事業の雇用者負担を検討すべき、⑩非正規職員の労働条件の抜本的改善を強く求める、と主張。

市労組連は2回の退庁時宣伝、連日の交渉を背景に27日第2回団体交渉を行い、青年層や臨時的任用職員の賃金カット中止など働きがいと生活できる賃金を強く求めました。